

平成30年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立諸富南小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。これは、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、改善を図ることが目的です。学校においては、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることやこれらの取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善を確立することを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

平成30年4月17日(火)

■ 調査の対象学年

小学校6年生

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 〔国語A、算数A、理科〕	主として「活用」に関する問題 〔国語B、算数B、理科〕
<ul style="list-style-type: none">身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	<ul style="list-style-type: none">知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査	指導方法に関する取り組みや人的・物的な教育条件の整備の状況、児童生徒の体力・運動能力の全体的な状況等に関する調査

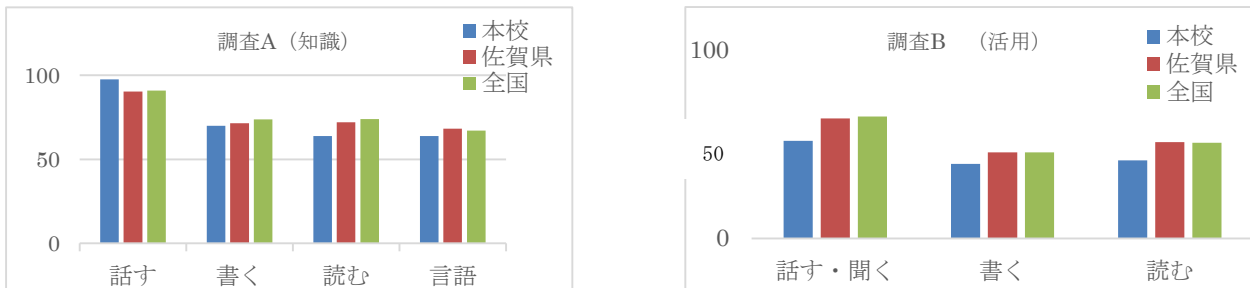
■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生（中学3年生）と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数（数学）、理科に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野（問題）です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

■ 調査結果及び考察

1 国語

(1) 結果 全国正答率との比較



知識を問うA問題では、全国平均とはほぼ変わらなかったが、活用力を問うB問題では、すべて全国平均を下回っている。だが、知識を問うA問題の「話す・聞く」の領域での平均が全国、県平均を上回った。

(2) 成果と課題

話す・聞く

・相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例を挙げながら筋道を立てて話す問題では、正答率が高く、朝の聴き合タイムの成果が現れている。

書く

・目的や意図に応じて必要な内容を引用したり書き加えたりする問題や、複数の内容を関係付けながら自分の考えを具体的に書く問題では、誤答となるものが多かったので、問題の条件を落とさず読む注意力をつける必要がある。

読む

・目的に応じて複数の本や文章を選んで読んだり、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかつ読んだりする問題では、誤答が多かった。数多くの文章を読み、短時間に要旨を読み取る力を身につけ、自分の意見をもつ態度を育成する必要がある。

言語事項

・漢字の読みやことわざの使い方は、全国平均より低かった。引き続き、漢字・言葉指導などを計画的に行い、定着を図る必要がある。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 落ち着いた学習態度の確立を図ります。学習前の道具の準備・心の準備・学習中に私語をしないことなどを心がけ、学習に集中して取り組むことをめざします。
- 授業の中で、考えを表現し、聴き合う活動を通して、進んで考え、共に学び合う場を数多く設定し、理解力を高めると共に表現力・思考力の育成をめざします。
- 毎朝読書に取り組み、幅広い内容の本を読むように奨励しています。本に親しむとともに、落ち着いて学習に臨めるようにします。

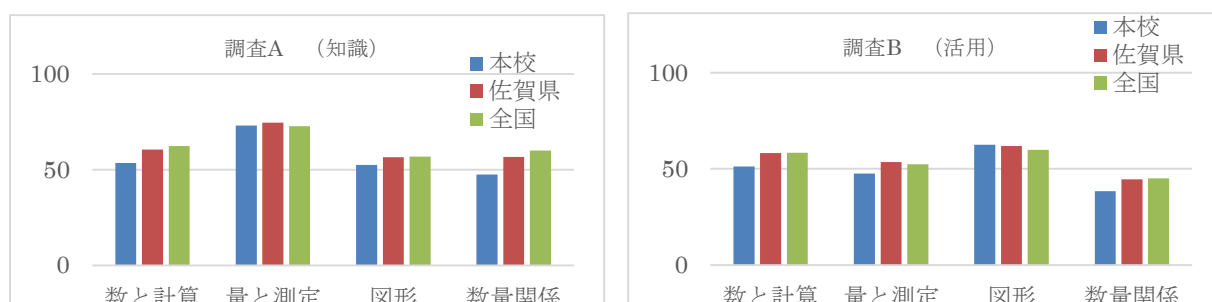
【ご家庭では】

- 音読を毎日聞いてあげましょう。繰り返し音読することで、文の構成、言葉の意味を理解し、文節ごとにきちんと区切ってすらすら読めるようになります。
- お子さんとの会話を楽しみましょう。聞くときは最後まできちんと聞き、話すときは語尾まではっきりと話しましょう。共感したり、根拠を尋ねたり、お互いの考えを交流しましょう。
- 漢字の繰り返し練習、新聞記事等の書き写し、感想書き等を自学学習に取り入れてみましょう。

2 算数

(1) 結果

全国正答率との比較



各領域での平均が全国平均を下回った。とくに「数と計算」「数量関係」で全国正答率の開きが多かった。また、「考え方」に大きな課題が見られ、「記述式の問題の回答率が低い」ことも要因のひとつであると思われる。

(2) 成果と課題

数と計算

- ・計算問題は全国平均を下回り、引き続き基礎・基本の四則計算の定着をめざし、確実な定着を目指す。特に小数の計算ができる問題が全国平均を下回っていた。小数の四則計算の特徴を捉え、小数点の位置を理解し、できるようにすることが必要である。

量と測定

- ・量と測定は、全国平均並であり、角の大きさを求める問題では、全国平均を上回った。ただし、示された考え方を解釈し、表に整理して求める問題には、課題が残った。

図形

- ・合同図形の書き方や立体図形の展開図を応用した問題では全国平均を上回っていたが、円に関する問題では、円周率や円周を求める問題に課題が出ていた。

数量関係

- ・割合が全国平均を大きく下回っていた。与えられた情報から、基準量、比較量、割合の関係を捉え、それぞれの量を判断し、その理由を記述できるようにさせる必要がある。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 授業で自分の考えを図、式、言葉でノートに書くようにします。聴き合い活動を取り入れ、友達の意見を繰り返し言ったり、言い換えたり、付け加えたりまとめたりできるようにしていきます。
- TT少人数指導、ノートチェック、プリント、ドリル、家庭への課題など、日々の指導の中で個々のつまづきを早期に見つけ、補充指導に努めます。
- 朝のスキルタイムで、低学年では基礎・基本の四則計算の定着をめざし、高学年では「すくすくテスト」を活用し、単元ごとの確実な習熟をめざします。

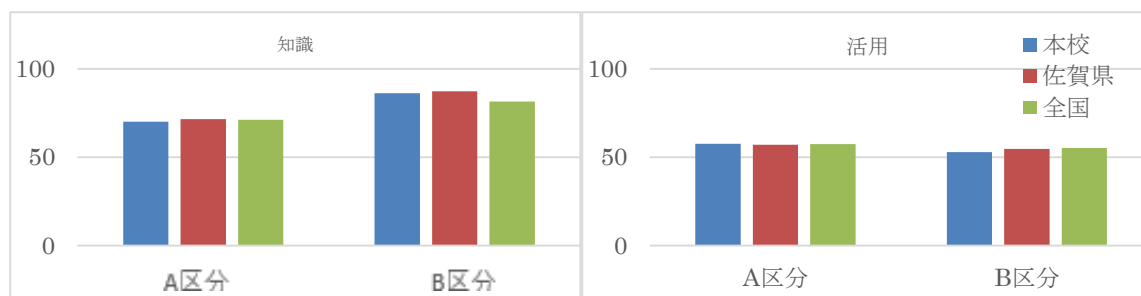
【ご家庭では】

- お子さんが今何を学習しているのか、理解できているのかを知るために、ドリルやプリント等の宿題・テストに目を通しましょう。そしてたくさん励ましや称賛の言葉をかけてあげましょう。
- 生活場面で算数を使ってみましょう。「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせるのが一番。「おかしを数えたり、分けたりで掛け算、割り算」「お風呂で水のかさ」「買い物で割合」「家の中で図形探し」など身の回りには算数を使えるものがあります。

3 理科

(1) 結果

全国正答率との比較



基礎的な知識を問う問題も活用力を問う問題でもA区分(物質・エネルギー)、B区分(生命・地球)ともに全国平均並である。

(2) 成果と課題

A区分(物質・エネルギー)

- ・食塩水を熱したときの蒸発について実験を通して導き出す結論を書く問題では、誤答が多くみられた。実験を通してえられた結果を基に整理しながら考え、互いに結果を導き出す学習過程を継続していく必要がある。

B区分(生命・地球)

- ・野鳥の雛の様子を観察する問題は正答率が高かった。興味・関心や目的意識をもって観察することができている結果であると考えられる。
- ・流れる水の働きについての問題では、全体的に課題が残った。地域に川により浸食されている土地などがなく身近に感じていないことから起因していると思われる。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 実験や観察を充実させ、環境の整備を推進します。
- 理科の学習で問題解決を通して明らかになったことを日常生活に当てはめて考えるようにします。学習で学んだことと実生活との関連を図ることを目指します。
- 授業では、「変える条件」と「変えない条件」に分けるなど条件を整理して実験を計画できるようにします。また、実験結果などのデータをまとめた表やグラフから傾向を捉えて考察し、根拠や理由を示しながら自分の考えを記述できるようにします。

【ご家庭では】

- 子どもが理科的なことに興味・関心を持ったときに、それにつきあったり、理解を示したりする大人や家族がいることは、理科好きな子に育つことにつながります。お子さんが科学や自然について疑問を持ち、その疑問について質問したり調べたりするときには、ぜひお子さんといっしょに考えたり、調べたりしてください。

4 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

《生活習慣について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	95.0	94.5
決まった時間までに寝る。	60.0	77.0
決まった時間に起きている。	90.0	88.8
平日読書を30分以上している。	22.5	41.1
平日読書は全くしない～10分未満。	65.0	33.6

朝食については全国平均ほぼ同じだが、就寝は、全国平均を下回っており、「早寝」の生活リズムが崩れている子供が多いようである。家庭への呼びかけが必要である。

読書については、30分以上している子が約22.5%しかおらず、10分未満の子が65%とほぼ全国平均の2倍近い。家庭での読書習慣の呼びかけが必要である。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
平日2時間以上勉強している。	2.5	12.5
平日0～1時間勉強している。	90.0	29.3
家で、学校の宿題をしている。(どちらかといえばしているも含む)	95.0	97.1
家で、授業の予習・復習をしている。(どちらかといえばしているも含む)	42.5	62.5.

学習時間は、2時間以上している児童がほとんどおらず、1時間未満の児童は約90%と学習時間がかなり少ない。学習時間を増やすよう呼びかけが必要である。

学習内容については、宿題はきちんとしているが、予習・復習については個々の意識に差があり、これが学習時間の差に直結していると思われる。家庭学習の質・量をともに上げていく必要がある。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 毎日、「音読」「漢字の書き取り」「プリントやドリル」を基本に宿題を出します。自主学习(自学)についても高学年で取り組み、お手本になる自学ノートを掲示する等して定着しつつあります。これから、中学年にも少しずつ広げていきます。
- 始業前(8:10～8:15)の朝の読書の推奨、貸し出しカードを教室で管理し利用を促す取組、ボランティアによる読み聞かせの月2回の実施など、読書の機会を増やしていきます。

【ご家庭では】

- 「早寝・早起き・朝ごはん」は、「明るく元気な諸富っ子の育成 家庭教育10か条」でも取り上げている項目です。規則正しい生活が子どもたちの心と体を育みます。
- テレビやビデオ視聴、TVゲーム等は、ご家庭で適度な時間を決めましょう。
- 「家庭学習の手引き」をご覧になり、学習時間のめやすや自主学习の説明を参考に、家庭学習の様子を振り返り家庭学習の充実を図りましょう。